

【背景と目指す姿】

- 上河内・河内地区は、耕地面積の92%を水田が占めており、水稻依存型の経営体が多い状況。**米の直接支払交付金の廃止による所得減少への対応が急務**であり、今後、多様な用途応じた米の生産のみならず、需要に応じた作物の生産を進めていく必要。
- そこで、当地域では、**水田を生かして機械化一貫体系が可能である上、業務加工向けに需要が高まっているたまねぎ**を水田に導入し、高収益水田農業のモデル産地の形成を図る。
- なお、**販路については**、市場出荷を基本としながら、**単価が安定し、出荷調整作業が省力でき、運送コストが削減できる県内カット企業**等の業務加工向けに販路を拡大していく。

1 水田における露地野菜転換面積

現状(平成29(2017)年度):2.0ha ⇒ 目標(令和2(2020)年度):10ha

2 主な取組内容(平成30(2018)～令和2(2020)年度)

項目	具体的方策
農地集積・集約化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規栽培者向けセミナーの開催、広報誌への掲載</li> <li>・園芸団地形成に向けた排水対策や育苗等の技術習得</li> <li>・人・農地プラン、農地中間管理事業の活用による集約化</li> </ul>
効率化・省力化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産機械のレンタルを行い、小規模農家の機械化一貫体制を構築</li> <li>・大型機械の実演やその導入による経営環境のシミュレーション</li> <li>・業務向けの簡素化規格出荷や共同選果場の利用による省力化</li> <li>・労働力ニーズの調査分析と、異なる品目(いちご等)で労働者融通等による地域段階での雇用確保</li> </ul>
加工・業務用需要への対応力強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約相手との良好な関係の継続</li> <li>・県の食品企業需要情報を活用し、新たな販路を開拓(特に県内食品企業)</li> </ul>



新規栽培者向け説明会



たまねぎピッカー実演会



県内カット企業への鉄コンテナ出荷